

札幌青少年吹奏楽団

第35回 定期演奏会

Program

力ナモトホール

2021年11月13日(土)

開演 19:00

主催 札幌青少年吹奏楽団
後援 札幌市 札幌市教育委員会
札幌地区吹奏楽連盟
札幌市民バンド連絡協議会



公演中はサイレントモードで



ごあいさつ

札幌青少年吹奏楽団 団長
小野 真一

本日は「札幌青少年吹奏楽団第35回定期演奏会」にお越しいただき誠にありがとうございます。昨年の定期演奏会は残念ながら中止にせざるを得ませんでしたが、今年はなんとか開催の運びとなりました。ご来場いただきました皆様、そして惜しみないご協力をいただきました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

当楽団は「楽しい音楽」をモットーに、音楽が大好きなメンバーの集まった楽団です。このコロナ禍においてどうしたら安全に音楽できるかを団員みんなで考えながら練習を重ね、この日を迎えることができました。至らない点やご不便をお掛けする点も多々ございますが、私共の音楽を楽しんでいただければ幸いです。

最後になりましたが、この度の新型コロナウイルスの感染拡大によりご苦労をされているすべての皆様に心よりお見舞いを申し上げます。一日でも早くこの事態が収束し、平穏な日々の生活を取り戻せるよう心から願っております。

指揮

札幌青少年吹奏楽団 常任指揮者
城分 陽介



札幌市出身。陸上自衛隊第7音楽隊在職中はクラリネット兼ピアノ奏者として活躍。その後、札幌大谷大学音楽学部へ入学。ピアノを専攻、クラリネットを副科として研鑽を積むと同時に、スクールバンドの指導にも携わるようになる。

卒業後、音楽活動を開始。札幌市民芸術祭新人音楽会や市民コンサートなど数多くの演奏会に出演したり、様々な楽器のピアノ伴奏を行うなどしている。

(株)エルム楽器ピアノ科講師。



札幌市出身。朗読家。アナウンサー。北海道テレビアナウンサーとして多くの番組でMCをつとめる。報道部ディレクターとして番組制作も行い「ギャラクシー賞」「プログレス賞」など受賞。朗読を田中隆子氏、山根基世氏に師事。2016年に独立。ライブやオンラインサロンで朗読の魅力を伝えている。

武蔵女子短期大学外部講師。「児童詩誌サイロ」編集スタッフ。NPO法人「ことばのひろば五億の鈴の音」理事長。「話し言葉のレッスン」主催。(有)オフィスパレット代表。

<https://www.office-palette.jp>

<第一部>

行進曲 『ブルー・インパルス』

斎藤 高順 作曲

「カヴァレリア・ルスティカーナ」より 間奏曲

ピエトロ・マスカーニ 作曲／レオナルド・ファルコン 編曲

エル・カミーノ・レアル

～アルフレッド・リード生誕100年を記念して～
アルフレッド・リード 作曲

<第二部>

カーテン・アップ！

～アルフレッド・リード生誕100年を記念して～
アルフレッド・リード 作曲

ハリウッド・マイルストーンズ

ジョーン・ヒギンズ 編曲

古畠任三郎のテーマ

本間 勇輔 作曲／小島 里美 編曲

A・RA・SHI

馬飼野 康二 作曲／小島 里美 編曲

ラピュタ

～キャッスル・イン・ザ・スカイ
久石譲 作曲

曲紹介

行進曲 『ブルー・インパルス』

斎藤 高順 作曲

「ブルー・インパルス」は、航空自衛隊の航空祭や国民的な行事などで華麗なアクロバット飛行を披露する専門のチームのことです。今年開催された東京オリンピック・パラリンピックで東京の空を舞ったことは記憶に新しいところです。

この曲は、航空自衛隊航空音楽隊（現・航空中央音楽隊）の創立10周年を記念して委嘱、作曲されました。ジェット機のスピード感を彷彿とさせる速いテンポとまるで編隊飛行のようなベル・トーン、軽快なボサノバと多用されるシンコペーション。そしてトリオで奏されるソプラノ・サクソフォンの美しい調べ。今までのマーチの概念を破った新しい作品として注目され、後にFM東京「フレッシュ・モーニング」のテーマ音楽として2年間に亘りオンエアされました。作曲されてから約50年経つ作品ですが、全く色褪せることのない軽快で魅力的な曲です。



曲紹介

「カヴァレリア・ルスティカーナ」より 間奏曲

ピエトロ・マスカーニ 作曲

歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ Cavalleria Rusticana」はマスカーニ（1863-1945）が作曲した1幕のオペラで、1890年に世界初演されました。劇はイタリア人小説家ジョバンニ・ヴェルガによる同名の小説と戯曲を元にした恋愛悲劇で、シチリア島で起こった事実に基づいているとされています。19世紀後半のイタリア・オペラに起こった運動《ヴェリズモ（現実派）》オペラの先駆としての初期の代表作で、マスカーニ自身の出世作ともなった作品です。

その劇中にはいくつもの美しく有名な歌や音楽がありますが、この間奏曲はその中でも最も有名な曲です。ゆったりと流れるような安らかな旋律は、映画やCMなどのBGMとしてよく使用されています。



曲紹介

エル・カミーノ・レアル

アルフレッド・リード 作曲

タイトルの「エル・カミーノ・レアル」は、スペイン語で「王の道」を意味しています。16世紀の半ばごろ、スペインはメキシコから今のカリフォルニア州のあたりを北上しながら開拓を行い、その経路を「エル・カミーノ・レアル」と呼びました。リードはこの道に思いをはせ、諸国の国王の行列の情景を思い浮かべてこの作品を作ったと述べています。

作品は、ホタやファンダンゴといったスペイン独自の舞踏リズムが取り入れられており、哀愁を帯びた中間部を含む「急・緩・急」の形式をとっています。スペイン特有の八音音階や和声、カスタネットやタンバリンといったリズム楽器が多用されており、リード作品ならではの勇ましく力強い金管楽器、纖細で美しい木管楽器の響きが魅力的な一曲となっています。

本日は、アルフレッド・リードの生誕100年を記念して、数ある作品の中から「エル・カミーノ・レアル」「カーテン・アップ！」の2曲をお送りします。

アルフレッド・リード
Alfred Reed
(1921-2005)



アメリカの作曲家・指揮者。吹奏楽の分野で200曲以上の作品を残し、「吹奏楽の神様」「吹奏楽の父」と称される。偉大な足跡を多く残したリードの一番の功績は、吹奏楽をブラスバンドからウィンドオーケストラという構成に変え、シンフォニックな音楽を演奏するという形を作り上げたことであろう。彼の音楽は、親しみやすく心を打つメロディ、安定した温かいサウンドが特徴とされる。

リードは1921年1月25日、ニューヨークのマンハッタンで生まれた。10歳からトランペットを、15歳から作曲を学び、高校卒業後は放送局の作曲・編曲・副指揮者となる。1942年から第529陸軍航空軍バンドに配属され、副指揮者として活躍。除隊後の1946年にジュリアード音楽院に入学、作曲をジャン

ニーニに師事した。1948年からラジオやテレビの音楽番組の制作にあたり、1953年にはハンセン出版社に入社、ベイラー大学で指導や研究を行う。1966年、新設されたマイアミ大学音楽学部・音楽産業講座に迎えられ、1993年6月に退くまで27年間にわたり教鞭を執った。その間、1968年にはペルー国立音楽院から名誉博士号を受けている。

日本との縁も古く、1965年に「シンフォニック・プレリュード」、続いて1970年には「音楽祭のプレリュード」が全日本吹奏楽コンクール課題曲として取り上げられて人気が高まり、他の多くの曲も自由曲として演奏されるようになった。1981年3月には東京佼成ウインドオーケストラの招きで初来日が実現。以後毎年のように来日し、プロ・アマ吹奏楽団の客演指揮やクリニックでの指導を行うなど、演奏技術や音楽表現の向上に広く尽力した。出版された約100曲あまりの吹奏楽曲のうち、日本の個人や学校・団体から委嘱されて作曲した曲は22曲にも及び、これらは日本の吹奏楽界にとって大きな遺産となっている。

生誕100年を迎えた現在でも彼の作品は多くの演奏会プログラムに取り上げられており、世界中の吹奏楽ファンに愛され続けている。



ブログも随時更新中です！



演奏会のご案内

みなさまのご来場をお待ちしています。

第43回 市民バンドフェスティバル in Sapporo

2022年4月29日（金）
*Kitara*大ホール

札幌青少年吹奏楽団 第36回定期演奏会

2022年10月9日（日）
*Kitara*大ホール

団員募集

私たちと一緒に音楽を楽しみませんか？
見学は随時受け付けています。

詳しくは[ホームページ](#)まで